

【 基準1 教育理念・目的・育成人材像 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【1-1】	理念・目的・育成人材像は定められているか
	評価 : 2
点検中項目【1-2】	学校の特色は何か
	評価 : 1.6
点検中項目【1-3】	学校の将来構想を抱いているか
	評価 : 2.3

【 基準2 学校運営 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【2-4】	運営方針は定められているか
	評価 : 2
点検中項目【2-5】	事業計画は定められているか
	評価 : 2
点検中項目【2-6】	運営組織や意志決定機能は、効率的なものになっているか
	評価 : 2
点検中項目【2-7】	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
	評価 : 2
点検中項目【2-8】	意志決定システムは確立されているのか
	評価 : 2
点検中項目【2-9】	情報システム化等による業務の効率化が図られているか
	評価 : 2

【 基準3 教育活動 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【3-10】	各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向づけられているか
	評価 : 1.6

点検中項目【3-11】	各学科の教育目標、人材育成像を構成する知識、技術、人間性等は、業界のニーズレベルに照らして、また、学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして明確に定められているか
	評価 : 1.6
点検中項目【3-12】	カリキュラムは体系的に編成されているか
	評価 : 1.6
点検中項目【3-13】	学科の各科目は、カリキュラムの中で適切な位置づけをされているか
	評価 : 2
点検中項目【3-14】	授業評価の実施体制はあるか
	評価 : 2
点検中項目【3-15】	育成目標に向けて授業を行なう事ができる要件を備えた教員を確保しているか
	評価 : 2.3
点検中項目【3-16】	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
	評価 : 2
点検中項目【3-17】	資格取得の指導体制はあるか
	評価 : 1.3
点検中項目【3-18】	地域社会との連携や地域性を生かした教育活動が行なわれているか
	評価 : 1.3

【 基準4 教育成果 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【4-19】	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか
	評価 : 1.6
点検中項目【4-20】	資格取得率の向上は図られているか
	評価 : 1.6
点検中項目【4-21】	退学率の低減が図られているか
	評価 : 2
点検中項目【4-22】	卒業生・在学生の社会的な活躍、評価を把握しているか
	評価 : 1.6

【 基準5 学生支援 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【5-23】	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
	評価 : 2
点検中項目【5-24】	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
	評価 : 1.6
点検中項目【5-25】	学生の経済側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
	評価 : 1.6
点検中項目【5-26】	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
	評価 : 1.6
点検中項目【5-27】	課外活動に対する支援体制が整備され、有効に機能しているか
	評価 : 1.3
点検中項目【5-28】	学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか
	評価 : 2
点検中項目【5-29】	保護者と適切に連携しているか
	評価 : 1.6
点検中項目【5-30】	卒業生への支援体制はあるか
	評価 : 2
点検中項目【5-31】	留学支援や海外との連携による国際教育交流の体制があるか

【 基準6 教育環境 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【6-32】	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように設備されているか
	評価 : 2.3

点検中項目【6-33】	学外実習、インターンシップ、宿泊研修等について十分な教育体制が設備されているか
	評価 : 1.6

点検中項目【6-34】	防災に対する体制が整備されているか
	評価 : 2.3

【 基準7 学生の募集と受け入れ 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【7-35】	学生募集活動は適正に行なわれているか
	評価 :

点検中項目【7-36】	学生募集において教育成果は正確に伝えられているか
	評価 :

点検中項目【7-37】	入学選考は、適切かつ公平な基準に基づき行なわれているか
	評価 :

点検中項目【7-38】	学納金は妥当なものとなっているか
	評価 :

【 基準8 財務 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【8-39】	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
	評価 : 2.5

点検中項目【8-40】	予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか
	評価 : 2

点検中項目【8-41】	財務について会計監査が適切に行なわれているか
	評価 : 2

点検中項目【8-42】	財務情報公開の体制設備はできているか
	評価 : 3

【 基準9 法令等の遵守 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【9-43】	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
	評価 : 1.6
点検中項目【9-44】	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
	評価 : 1.6
点検中項目【9-45】	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
	評価 : 2
点検中項目【9-46】	自己点検・自己評価結果の公開をしているか
	評価 : 2

【 基準10 社会貢献 】

1: 適切 2: ほぼ適切 3: 普通 4: やや不適切 5: 不適切

点検中項目【10-47】	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか
	評価 : 2.3
点検中項目【10-48】	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
	評価 : 2.3

会議議事録

委員会	2024 年度 学校関係者評価委員会
学校名	東洋きもの専門学校
会議名	令和 6 年度 学校関係者評価委員会
開催日時	令和 6 年 6 月 18 日(火) 18 : 00～19 : 30
場所	東洋きもの専門学校 イベントホール
出席者	◇委員 ・ 金尾 昭夫 (大阪府立鶴見商業高等学校 校長) ・ 藤岡 将 (アトリエシルク千林店 ジェネラルマネージャー) ・ 中尾 誠美 (東洋学園高等専修学校 進路指導部長) ・ 十石 尚子 (東洋きもの専門学校卒業生 和裁士・着付け師) 事務担当 説明者 ・ 伊藤 信子 (東洋きもの専門学校 校長) 司会 ・ 田中 昭子 (東洋きもの専門学校 教員) 書記 ・ 林 香世 (東洋きもの専門学校 教員) ・ 木村 恋 (東洋きもの専門学校 教員) ・ 岡村 智代 (東洋きもの専門学校 教員) 欠席 合計 8 名出席

議案	協議 ①令和 5 年度自己評価結果報告 ・ アンケート結果について 「現状と今後について」 ②学校概要について ・ 今年度の本校の取り組みについて ③今年度の重点目標について 教育活動・教育成果・学生支援・教育環境 ④意見交換
----	--

内容	・ 学校長挨拶 ・ 委員紹介 協議 ①令和 5 年度自己評価結果報告 ・ アンケート結果について「現状と今後について」 〔伊藤校長より〕・・レジュメ「学校評価結果より 現状と今後について」にそって説明。 委員の先生方にアンケートをお願いしたのが 48 項目、そのうち実施していない 国際協力の項目を除いた 47 項目についての返答結果をまとめた。 全体的に高い評価をいただき、平均値が約 1.6 となった。評価基準は 5 段階評価で 数字が小さいほど高い評価となる。それを踏まえて、報告する。 ・ 基準 3 【3-14】 ・ 在校生アンケート 4 について 学校評価の実施体制はあるかという点について、今年度の入学生はきもの科の 2 年間で あり、充実、満足のいくカリキュラムになるよう取り組んでいきたい。すでに各学年に合 わせた専門分野の現場見学や説明を取り入れている。 学生アンケートでも評価は上がってきているので、今後も状況に合わせて教務中心に内容の 充実を図っていきたい。 ・ 基準 3 【3-17】 ・ 資格取得について、取得に向けた検定講座などの指導体制はとっているものの受験級が 上がると共に合格率が下がっているのが現状。 より一層学生の理解につながる指導体制に取り組んでいく。 ・ 基準 4 教育成果について 年々 心疾患の学生が増えている中で各授業の担当教員、学生課が一丸となりサポートし 保護者との連携をとり対応を行ってきた。学生アンケート結果からも学生と教員の コミュニケーションは評価されているが、クラス内の人間関係や個人の悩みによるもの に関しては保護者との連携があっても困難な面もある。引き続き学生の様子を注視し対応 を行っていく。 就職について、昨年度の就職希望者は全員就職。今年度の卒業生は昨年末より個人面談を 重ね、履歴書の書き方や就職相談などサポートを進めている。 6 月現在の卒業予定者が 9 名 内、就職希望者が 6 名、結果待ちが 2 名 エントリー中が 2 名。全てきもの業界で就職活動を進めている。
-----------	---

・学生アンケート 17～24

教育活動・教育成果を交えた学生アンケート 17～24 がカリキュラム、授業体制についての評価になっている。全体的に 1.5 前後の高い評価を得ているが、学習量や実習量について能力の差により充実した内容だったと感じる子もあれば、課題が多く負担を感じた子もいるのが現状。ただ技術者を育てる本校としては、プロとしてきもの業界で通用する技術量・知識量をもって卒業するというカリキュラムを組んでいるので、内容変更ではなく学生に合わせたサポートでカバーしていく。

・基準 5 学生支援について

アンケート結果 8 の就職・進路に関する説明、その理解度の評価は変わらないものの、より一層 進路指導担当と卒業学年担当で連携を強め、理解度向上に繋げたい。

アンケート結果 6 学生への相談窓口や手続きについての評価が昨年より 0.2 下がった。

令和 4 年度より担当化をはじめ説明を行い、徐々に浸透してきてはいるものの、中々全員の理解に繋がっていないのが現状。担当一覧を配り教室に掲示するなど明瞭化は図っているが、社会に出た時に他人から言われなくとも動いていけるようにサポートを続けていきたい。

卒業学年の就職活動においては、現在も企業と密に連絡をとりあっており、企業訪問を行うなど、情報収集や就職依頼も個別に実施している。今後においても社会情勢を注視し学生に合わせたサポートを続けていく。

・基準 6 教育環境について

アンケート結果 3 の教育活動などに関する情報公開について令和 4 年度はまだコロナウイルスの状況を注視してからの公開だったため、1.9 だったのに対し昨年度は事前の情報公開、課外授業の充実を図ることができ改善につながった。

アンケート結果 15 の施設・設備・防災設備については数値が下がっている

これに関して、学生から移動に使用する階段に雨が入り込み濡れてしまう問題について声が上がっていたためと推測される。が、校舎の消防法上階段の壁を塞ぎきることができないため改善できない点である。現在は雨の給水作業等で対処をしている。

・基準 10 社会貢献について

例年に引き続き、7 月 25 日に行われる天神祭り「陸渡御」巡行者・供奉人への着付けその他にも着物の知識についての講義や着付けの講習会。

着付け師の派遣（6 月・7 月）を実施、また成人式への着付け師派遣も実施が決まっている。

さらに今年度は地域住民対象のワークショップを開催予定である。

季節に合わせ、浴衣の着付け講習会から、地域のお子さんの自由研究にもしていただけるような染色体験などを企画している。

②学校概要について

- ・今年度の本校の取り組みについて

〔伊藤校長より〕・・レジュメ「今年度の取り組み」にそって説明

【学生の満足のいく学校づくり】をより一層力を入れて取り組んでいく。

☆学外学習の充実を図る

学校の中、教員だけでは教えきれない、織機の音や素材のにおい、現場の気温などを産地の工房や工場へ赴き体感する授業を行っている。

☆学生の自立心のさらなる向上

自身で考え、動けるようにサポートをする。

☆地場産業との取り組み

大阪 堺の地場産業である伝統工芸品「浪華本染め」の実演講習と体験を7月11日に実施

☆講演・講習会の実施

7・9月にはゆかた、きものの着付け講習会を行う。9月には大学生・一般に向けた講演「きもの学」において着物の基礎知識の講師として教員を派遣する。

☆第64回東洋コレクションの開催

10月26日(土) T・Bホールにて 2回公演開催予定

③今年度の重点目標について

- ・教育活動 ○検定への取り組み ○カリキュラムの充実
- ・教育成果・学生支援・教育環境 ○各種検定合格率の向上 ○就職指導の強化
- ・学生支援 ○相談窓口の明瞭 明確な担当別とその周知

④意見交換

〔伊藤〕 年々増加している、心疾患を抱えた学生についてどのように対応されているのか

〔金尾〕 心疾患や支援を要する生徒が増えているのは確か、中学校でも増加傾向にありそういった生徒が進学し、専門学校でも増加しているような状況だと思われる。

〔伊藤〕 保護者の方とも連絡を取っているが、保護者からの理解が得られず学生のプレッシャーになっている子もいれば、家庭内で繊細に育てられ保護者が登校を止めるケースもあった。

〔金尾〕 全日制の学校は毎日授業を受けることで、初めて評価につながるので不登校や満足以登校ができない生徒は退学となることが増えてしまう。

本校としては、そういった生徒に対してなるべくプレッシャーをかけない形で別室登校や短い時間での授業など、学校に来ることを目標としたサポートをしている。

また検定などを通じた成功体験などで自己肯定感を持ってもらえるように授業を行っている。それでもなかなか単位習得につながらない場合は、通信制など生徒が学び続けられる道を提案する、もしくは外部のスクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどを頼り生徒へのサポートを続けている。

〔伊藤〕心疾患のレベルも様々あるが、一人で電車もなかなか乗れなかった学生が入学して、着付けができるようになった、着物が縫えるようになったと少しずつ自身がつき、人とのコミュニケーションが取れるようになる学生もあれば、学校に足が向かず単位が習得できずにやめてしまう学生もいる。

〈中尾〉1年生の中でも自分の意志で入学をしたが、中学校での不登校により足が遠ざかってしまい、駅まで迎えに行くことがある。本人もなぜかはわからないけど行きたくないでも行けないことが辛くて泣いてしまう、行きたい気持ちに体が伴ってこない状態だった。とりあえず学校の門まで見るなど、学ぶよりも学校に来ることを目標に学年主任やたくさんの先生方の力を借りて対応を行っている。中には成果が出て学校に来れるようになった生徒もいるので、最終的には本人のタイミングが合うかどうかということだと感じている。

〔藤岡〕私自身は学校にいけないという経験はなかったが、親という立場になり理由はわからないけど教室にいけない、保健室だったら大丈夫という感覚に触れ、不登校に対して保護者などが強制して登校を促すとより行きづらくなると感じた。

保護者としてはその分一緒に過ごす時間を増やしコミュニケーションをとって学校へのハードルを下げてあげるのが必要だと思う。

学校としては卒業して就職まで支えられるのが一番だと思うが、学生の就職するタイミングはそれぞれだと思うので、学んだ知識や経験を大事にしていくべきだと感じる。

何よりも今まで自分たちが学生であった時の環境と今は全く異なっているので、教員や保護者が想像しがたいことではあるが、寄り添う姿勢が伝われば学生も安心できるのではないかな？また卒業生の頑張れたという生の声があると思うので、そういった学生のインタビューを掲載してみてもらうのも一つの手段ではないだろうか。

〔伊藤〕かつては子供の頃に遊びの中で、喧嘩をして謝って、叱られて我慢をしてという人とのコミュニケーションや付き合い方を学ぶ環境だったが、現代ではゲームなどオンラインが主流となり顔を見なくても交流ができる分人づきあいが不慣れな事もあるのではないかな。

〔藤岡〕オンラインも悪いことばかりではなく、学校以外の居場所として交流を深められる場であるので、学校だけが全てではないということを感じてもらい、学校は多種多様な人を受け入れる場所だと思ってもらうのもよいのではないかな。

	〔伊藤〕 通信制でほとんど学校に登校せず卒業をしたところから入学をした学生もおり 少しずつ順応した学生もいれば、なれなかった学生もいるので皆様の意見をもとに 学生たちを導いていけるような学校になるように努めていけたらと思う。 貴重なご意見をいただきありがとうございました。
--	---

会議議事録

委員会	2024 年度 学校関係者評価委員会
学校名	東洋きもの専門学校
会議名	第 12 回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和 7 年 2 月 10 日(月) 18 : 00～19 : 30
場所	東洋きもの専門学校 イベントホール
出席者	◇委員 ・金尾 昭夫 (大阪府立鶴見商業高等学校 校長) ・中尾 誠美 (東洋学園高等専修学校 進路指導部長) ・十石 尚子 (東洋きもの専門学校卒業生 和裁士・着付け師) 〈欠席〉 ・藤岡 将 (アトリエシルク千林店 ジェネラルマネージャー) 事務担当 説明者 ・伊藤 信子 (東洋きもの専門学校 校長) 司会 ・田中 昭子 (東洋きもの専門学校 教員) 書記 ・木村 恋 (東洋きもの専門学校 教員) 合計 6 名出席

議案	協議 ①学校概要について ・今年度の本校の取り組み実施報告 ②令和 6 年度自己評価結果報告 ・アンケート結果について ・今年度の重点目標について 教育活動・教育成果・学生支援・教育環境 ③意見交換
----	--

内容	・ 学校長挨拶 協議 ①学校概要について ・ 今年度の本校の取り組み実施報告 〔伊藤校長より〕・・・レジュメ「令和6年度の取り組み 実施報告」にそって 主な取り組みを説明 特に今年度掲げていた【学外等での学びの充実】のため美術館・博物館だけでなく 実際の職人さんが働く工房や現場への見学にも力を入れた。 〔4月〕 卒業学年対象に3泊4日の沖縄研修旅行 実施 一・二年生校外学習(福田美術館・嵯峨嵐山文華館) 実施 〔5月〕 二年生対象に1泊2日の丹後研修 実施 三年生校外学習(伝統工芸士 徳永絋工房) 実施 一年生校外学習(和晒工場・注染工場) 実施 意匠デザイナー校外学習(インクジェット染色 工場見学) 実施 意匠デザイナー産学共同授業(万葉寺井 振袖意匠デザイン) 始動 〔6月〕 芸術鑑賞(文楽) 実施 きものコーディネーター野外撮影実習 実施 きものコーディネータースタジオ撮影実習 実施 学校関係者評価会議 〔7月〕 芸術鑑賞(歌舞伎) 実施 天神祭り 陸渡御列 巡行者袴着付け 注染実演講習会 実施 校外学習(舞妓の生活と衣装) 実施 〔8月〕 和裁技能士国家検定 特別講座 実施 〔9月〕 芸術鑑賞(宝塚) 実施 きもの普及活動 京都産業大学にて講座 〔10月〕 住吉大社「宝の市神事」市女として協力 第64回 TOYO Collection 実施 〔11月〕 校外学習(「きもの日」京都織物卸商業組合イベント) 実施 校外学習(京都風俗博物館 平安時代の生活) 実施 東洋学園 70周年記念式典 〔12月〕 きものコーディネータースタジオ撮影実習 実施 一年生特別講義(きもの業界の仕組み) 実施 〔1月〕 一年生特別講義(きものの格付け・TPOと柄について) 実施 〔2月〕 針供養 実施 着付け検定試験 実施予定 卒業前学年校外学習(令和のきものしごと展) 実施予定 〔3月〕 卒業式 実施予定
-----------	--

②令和6年度自己評価結果報告

- ・アンケート結果について
- ・今年度の重点目標について

教育活動・教育成果・学生支援・教育環境

〔伊藤校長より〕・「学校評価アンケート結果・自己評価報告書」に沿って説明

今年度の重点目標でもあった【学外等の学びの充実】というところに関してはアンケート結果4 校外学習や芸術鑑賞など課外授業の充実に対して〈1.1〉と高い評価を得られている。

基準3 教育活動「3-10」アンケート結果 17～24

- ・業界のニーズに合わせた人材育成として、学内の講師による実習だけでなく現場へ赴き実際に働かれている方のお話も直接聞くことにより、技術だけでなく即戦力となる知識・経験を得る結果となり、学生の満足へつながっているのではないかと感じる。
- ・アンケート結果17 資格取得への斡旋や対策講座に関しては報告書「3-17」の通り各種検定の前には受験級に合わせた対策講座を開くなど指導を行っているほか和裁技能士国家検定に関しては、冬休みの間から特別講座を行い合格率の向上に努めている。

基準4 教育成果「4-19・21」

- ・今年度の卒業生8名 就職希望者4名〈染色活動2名 進学1名 他1名〉すでに就職希望者4名の内定が決まっており、ブライダル、振袖レンタル・販売法衣の縫製など全員がきもの業界への就職となっている。
- ・退学率の低減に関して、現在のところ退学者居ないものの休学中の学生や医師の診断により自宅療養として休学してから復学した学生もいる。年々共同生活やコミュニケーションを苦手とする学生が増加しているように思う。非常に繊細で一回の欠席から顔を合わせることが不安となり教室に入れなくなるような学生いる中で、保護者の方の考え方として登校を続けさせることよりも学生の感情を優先し、心配される方も増えているため、今まで通りではなく学生個々に合わせた対応が課題になっている。

基準5 学生支援「5-23」アンケート結果 7～12

- ・アンケート結果8 就職・進路に関して、説明はわかりやすく充実しているという事で【1.5】と昨年よりも評価が上がっている。
アンケート結果9・11の教員は学生のことを理解し、信頼関係が築けているかという点で良い数値になっていることから、学生のタイプに合わせた情報の提供説明や紹介が満足度に繋がっていると感じている。

③意見交換

〈金尾〉公立高校でもアンケートを取り評価を出すことがあるが、東洋きもの専門学校の学生アンケートを見ると非常に評価が高く、学生の満足具合がわかる。
実際に技術を身につけるという専門学校でカリキュラムにとっても尽力されていることがうかがえる。

〔中尾〕実施報告でも多くあった外部研修の費用についてはどうされているのか？

〔伊藤〕授業料と別に「年間教育活動費」を集めさせていただいており、この中から校外学習にかかる費用や必要な教科書などに充てている。
年度により物価高騰など変動があるので、年度末に追加徴収や返金など調整を行っている。

〔伊藤〕最後まで学生の知識・経験・満足の為に、校内をはじめ学外研修など充実を図り「入学してよかった」と言ってもらえるように教員一同尽力してまいりたいと思います。